

くりすたる

2012. 3

化学科同窓会の新体制スタート

同窓会会長(16回卒) 阿部 百合子

奈良女子大学は2010年に創立100周年を迎え、新たな一歩を踏み出しました。それと同時に、化学科同窓会も新時代に向け、時代に即応した改革に取り組み始めています。今迄実質的な事務局を運営してきた化学科卒の同窓会員が、つぎつぎに定年退職し事務局を竹内先生ひとりにお任せするのは困難となりました。会長は、いままで3年ごとに交替したクラス代表の中から運営委員が決まり、その中から互選で決めておりましたが、事務局を大学外に置くとなると会長の牽引力が必要と考えられ、常任委員会で長年事務局の一員として同窓会活動に携わり同窓会の事情を周知している私が引受けました。次期会長に新体制を確立してスムーズに橋渡しを致したいと考えております。

2008年の総会で以下のことが決まっています。

- 化学科の事務局を大学外に置き、実質的活動を継続する。
- 住所録発行は中止する。その代わりにコピー不可のCD名簿を作成する。名簿の更新は今迄通りクラス代表(3年任期)にお願いする。
- 会報誌「くりすたる」は簡便なニュースレター形式とし、経費削減のため総会案内と同封して郵送する。
- 会費は入会時に3,000円徴収する。住所録、会報誌の変更により、一般会計の徴収は検討課題とする。
- 同窓会のホームページあるいはブログを立ち上げて、同窓会の情報を発信する方向で検討する。
- 今後、同窓会は卒業生だけでなく教員とお互いに協力し合うのが望ましい。

奈良女子大学化学科同窓会

総会・懇親会のご案内

今年の総会・懇親会は大学の現職員や在学生が出席しやすいように、奈良女子大学構内で行います。また、奈良女子大学施設見学も予定しております。皆様お誘い合わせの上、ご参加ください。すようご案内申し上げます。

日時 平成二十四年八月四日(土)

受付 午前十時三十分より

総会 午前十一時～十一時五十分

奈良女子大学施設見学

正午～午後〇時四十分

懇親会 午後一時～三時

場所 奈良市北魚屋西町 奈良女子大学

総会 文学部北棟N101教室

懇親会 大学生協食堂

TEL 〇七四二一二三一五〇一六

会費 五〇〇〇円(学生以外の同窓会員)

五〇〇円(学生)

会費は当日頂きます。

申込締切り日 平成二十四年七月二〇日(金)

申込先 〒六三〇一八五〇六

奈良市北魚屋西町理学部

奈良女子大学化学科同窓会宛に郵送

ファックス 〇七四二一二〇一三〇二七

メールアドレス scl3069@cc.nara-wu.ac.jp

のいずれかでお申し込みください。

化学科同窓会組織（2011年～2013年）

常任委員：

会長経験者：2回卒 夜久富美子 4 蔵田正代
7 浜中佐和子 9 中井正子 13 新宅春代
14 河野薫子

奈良女子大学卒の現・旧職員：3回卒 奥村晶子

14 久留島涼子 16 阿部百合子 28 竹内孝江

事務局： 会長 16回卒 阿部百合子

副会長兼総会係り 14 山田春美

化学科との連絡係り 28 竹内孝江

広報係り 16 中井正子 35 片岡みか

庶務係り 28 古谷貴美子 16 田嶋恵子

会計係り 22 高松逸子 23 山形典子

住所録係り 37 辻川直子

くりすたる係り 30 萩山和代

クラス代表：各クラスのクラス代表1名、全卒業回生で58名。

運営委員：クラス代表のうち持ち回りで次の卒業回生が運営委員に当る。

3回卒 奥村晶子 7 浜中佐和子 11 今川勢津子

15 青山宏子 19 岡田玲子 23 山形典子 27 伊

藤恭代 31 神谷恵理子 35 片岡みか 39 重田

陽子 43 大仲友子 47 鍋谷直子 51 圓山雅子

55 青山恭子

2011年4月18日（土）に奈良女子大学で第1回運営委員会が開かれ担当係り（住所録係り、総会係り、会報誌係り）が決まり、それぞれに分かれて作業を進めた。★は責任者。

住所録係り：★31 神谷恵理子 3 奥村晶子 11 今川勢津子

47 鍋谷直子 55 青山恭子

各クラス代表に連絡し、住所録更新をお願いした。締切りは10月末。これを用いて総会、会報誌の発送を行った。住所録係りの責任者より同窓会クラス代表が個人情報を集めて、変更をすることに一考を要するとの意見が出されている。

総会係り：★19 岡田玲子 7 浜中佐和子 35 片岡みか

39 重田陽子 43 大仲友子

2012年8月4日（土）の同窓会総会に大学教員、大学院生も出席しやすいように、奈良女子大学構内で行うこととした。大学との連携が重要と考えられ、化学科学科長の中沢先生と2011年6月26日（土）に懇談した。化学科の方針としては、同窓会と一線を置きたい意向であること、また、協力するにも同窓会活動が教員や学生に見えていないので、ホームページの創設を希望するとのことであった。

会報誌「くりすたる」係り：★27 伊藤恭代 15 青山宏子

23 山形典子 51 圓山雅子

会報誌「くりすたる」掲載の原稿を分担して依頼した。その間、編集会議を4回開き、最終原稿を春日印刷に依頼した。

事務局、クラス代表、運営委員の皆様のご協力により、2009年の総会で決まりました事項を概ね実行に移すことが出来ています。8月の総会では、さらに同窓会の在り方を議論し、同窓会の更なる発展の為に、皆様の大勢の参加をお待ちしております。

化学科の現況と卒業生へのメッセージ

理学部化学科学科長 中沢 隆

2010年度の4月から化学科学科長を拝命しました中沢隆です。任期は2年ということになっていますので、この原稿が皆様のお目に触れる頃はもうすぐお役御免になるか、既に開放感にひたっているのではないかと思います。

2009年12月に発行された「くりすたる」で片岡靖隆・前学科長の記事、「化学科教室から『次のミレニアムに向けて』」では、2007年以来、化学科教員のうち3名（小川昭弥、加藤昌子、小幡誠）の転出と5名（久留島涼子、池原健二、榮永義之、矢野重信、阿部百合子）の退職があったことが紹介されています（文中敬称略）。これに、7名の赴任を加えて2009年の時点では化学科の教員は16名でした。それ以後の2年間は比較的異動が少なく、2011年1月に片岡悠美子・助教を立命館大学より、また2011年10月から中村伊都子・助教を京都大学より迎えています。その結果、2011年11月1日現在の化学科の教員組織、つまり研究分野と担当教員は以下の通りとなっています。

物性物理化学：飯田雅康教授、吉村倫一准教授

有機合成化学：片岡靖隆教授、浦 康之准教授

理論物理化学：衣川健一教授、太田靖人准教授

生命有機化学：中沢 隆教授、三方裕司准教授

機能性高分子化学：岩井 薫教授、竹内孝江准教授

中村伊都子助教

有機金属・錯体化学：棚瀬知明教授、中島隆行准教授

久禮文章助教

生物無機化学：塚原敬一教授、高島 弘准教授

機能性材料化学：梶原孝志教授、片岡悠美子助教

さらに詳しくは、インターネットの化学科ホームページ：<http://www.chem.nara-wu.ac.jp/> をご覧下さい。そういえばこのホームページも2010年度にリニューアルしました。

このように、教員組織もその人数もここ2年間であまり変化がありませんでしたが、教育と研究、さらに運営の面ではかなりの激動の時期だったように思われます。まず、

教育の面では入試制度改革、学部のカリキュラムの見直しが毎年のようにあり、研究の面では年々厳しさを増す運営費交付金の削減への対処にはじまり、各教員においては外部資金獲得への努力、授業評価への対応、ファカルティー・ディベロップメントへの参加、社会貢献などが求められるようになりました。2010年度あたりからは各教員は教育、研究、社会連携、管理運営などに関する自己評価や活動報告書を提出しなければなりません。これだけでもまだ半分程度で、さらに大学全体や学部の各種委員会が開かれます。それやこれやで、毎月1回の教室会議が4時半にはじまると終わるのが8時過ぎ、場合によっては9時を過ぎることが珍しくなくなりました。私が化学科に赴任したのは80年代でしたが、夕方になるとかなりの部分の教員（当時は「教官」と称していた）はテニスコートや運動場に出かけていたことを思い出すと、とても同じ大学とは信じられない程です。化学科の教員は、このように多忙な日常にも関わらず、当然のことながら研究活動を極めて活発に行っています。現在作成中の2001年から10年間の「理学部自己点検・評価報告書」によれば、教員1人あた

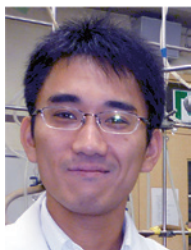
りの査読付き原著論文発表件数の平均は約3報で、さらに総説論文、著書、国際・国内学会などの招待講演に関しては、前回の集計よりも件数で大きく上回る結果となっています。もちろん、各教員の奮闘・努力の賜物であるとともに、化学科が進めてきた研究設備の整備もこうした研究活動を支えています。共通機器として主なものをあげればNMR装置が4台（270MHz, 300MHz x 2, 400MHz）、X線結晶解析装置3台、質量分析装置はESI-TOF型1台、MALDI-TOF/TOF型1台などで、いずれもほぼフル稼働状態です。

こうした研究活動は、各教員はもちろん、大学院生と研究室に配属された4回生によって支えられています。そのためには優秀な学生の確保が欠かせません。卒業生の皆様方におかれましては、学力ばかりでなく気力、体力、さらには化学に対する向学心に燃える高校生を是非、我が化学科に一人でも多く送り込んでいただくよう、よろしくお願い申し上げます。最後に誠に厚かましいお願いのメッセージとなってしまいましたが、化学科の発展なしには同窓会のご期待に沿う道はないと信じております。

新任先生の紹介

ご挨拶

理学部化学科 久禮 文章



平成21年11月1日付けで奈良女子大学理学部化学科に助教として着任させていただきました久禮文章と申します。どうぞよろしくお願い致します。私は大阪府泉佐野市出身で、大阪大学で学位を取得するまでずっと関西で過ごしてきました。九州大学で1年半博士研究員をしており、そののち奈良に移ってまいりました。

再び関西に帰ってくることができ、しかもこのような素晴らしい環境で研究・教育をさせていただく機会を与えて頂き大変感謝しております。

私の専門分野は錯体化学・有機金属化学という分野です。特に、一つの分子内に二つ以上の金属を有する多核金属錯体の合成および反応性についての研究を行っています。多核金属錯体には単核錯体ではなし得ない特異な反応性を有することが期待されており、そのような化合物の合成と新しい反応の開発を目指して日々の研究を頑張っております。現在、棚瀬知明教授、中島隆行准教授、および9人の学生（修士3名、学部6名）とともに充実した日々を過ごさせて頂いています。

最後になりましたが、奈良女子大学理学部化学科の研究・教育のために精一杯頑張らせて頂きますので今後ともどうぞよろしくお願い致します。

ご挨拶

理学部化学科 中村 伊都子



はじめまして。平成23年9月1日付けで、大学院 人間文化研究科 共生自然科学専攻（理学部 化学科 兼任）に助教として着任致しました、中村伊都子と申します。専門分野は高分子化学で、学生・博士研究員時代の計8.5年間、京都大学大学院 工学研究科 材料化学

専攻にて『天然を模倣したセルロースの人工合成』や『ポリ(N-イソプロピルアクリルアミド)の精密リビング重合』などの研究をしていました。

今回が学部4回生での研究室配属以降初めての環境の変化であり、非常に緊張しながら理学部C棟に足を踏み入れたのですが、学内の木々や時々遊びに来ている鹿、荘厳な記念館、そして何より温かい先生方と勤勉で魅力的な学生さん達のおかげで、今ではすっかり緊張も解れ充実した日々を送っています。

現在、岩井薫教授の下で研究活動をスタートさせており、『刺激応答性高分子から成る分子集合体の作製とその応答挙動評価』に取り組む予定です。少しでも本学の発展に貢献できる様、そして同じ理系の女性として学生さんに将来の進路の一例を示すことができる様、研究・教育に邁進したいと思います。ご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

2つの受賞にあたり

—— 文部科学大臣優秀教員表彰と化学教育有功賞（日本化学会）を受けて ——

21回卒 勝部 秀子

私は奈良女子大学を卒業して、出身地の島根に戻り、高校の理科（化学）教員として赴任をし、38年間の勤務を経て2011年3月に定年退職を迎えた。最後の年に期せずして、2つの表彰の栄に浴することができた。化学教育有功賞の内容としては「環境調査に関する高校化学クラブ活動の指導と地域の化学教育活性への貢献」というものである。授業を通して化学の不思議さ、面白さを伝えること、受験指導は勿論ではあるが、一方で社会における化学の使命感を伝えたい思いもあり、化学クラブで環境問題に長年取り組んできた。自分が実践してきたことを披露するのは面映ゆいが、ここに一端を紹介したいと思う。

1. 地域の環境問題への取り組み ー化学クラブを通してー

①松江北高 ー「松江市橋北地区の堀・河川の水質汚濁調査」ー（在職昭和53～57年）

城下町である松江市橋北地区は宍道湖と繋がる堀・河川を有している。当時は下水道が完備されていないため、家庭排水も入り、水質が悪化する傾向にあった。これを防ぐために、汽水湖の宍道湖水を堀・河川に導入して浄化する市の水行政があった。しかし、農繁期には水田へ汽水（塩分）が入らないように、3月～10月の間は、宍道湖水が導入される樋門が閉ざされるため、水質が悪化する。水の Cl^- 、COD、DO、クロロフィルa、 PO_4^{3-} 、 NH_4^+ 、 NO_2^- 、透視度を調査することによって、前述のことを明確にした。市からの依頼で、データを提出したことが数回あった。

②出雲高 ー「出雲高校周辺の大気汚染調査」ー（在職昭和63～平成12年、平成19～22年）

「アサガオに斑点のつく雨が降る」の新聞記事がきっかけで、大気調査を平成2年に開始した。市内8点において毎月大気捕集をし、学校で雨を捕集し、大気中の SO_2 、 NO_2 、雨のpH、 NO_2 、 SO_2 の調査を開始した。2年3年を経ると雨の SO_2 (SO_4^{2-})において、冬季に数値が大きくなる傾向が出てきた。風向、風速を調べると北西～西の風であった。平成6年からは神戸西部の大気データが年1回得られ、島根と比較ができるようになった。

た。 NO_2 は車の交通量により、神戸が2～10倍高く、 SO_2 は島根と神戸では、ほぼ同じか、若干島根が高くでることがわかってきた。この結果は平成7年には日本化学会「夢－化学－21」高校化学クラブ研究発表大会（東京）で「日本工学会会長賞」を受賞した。

そして、2度目の勤務となった平成19年から、再び大気の継続調査を行い、現在に至っている。

③松江南高宍道分校「かいこから生糸まで～体験学習～」ー（在職平成12～15年） 略

2. 地域における化学教育活動

①大気調査結果の教材化 ー島根県の理科副読本「島根の自然」(B5版114ページ)の中に「島根の NO_2 、 SO_2 」(2ページ)として教材化されている。

②島根県の化学実験書の改訂委員として ー通算で10年近く、毎年行われる実験書の改訂に関わった。

③島根県理数科教育研究会の事務局長として（2007～2008年度） ー県の理数科設置校6校の上記の事務局長として、将来の日本の科学技術発展のリーダーとなる人材の育成と、理数科教育の推進のために、年2回開催される理事会・連絡協議会を通して、企画・運営・実践を行った。

以上であるが、その程度なら私もできると思っていたかと幸いである。後輩諸姉の活躍を祈念します。



同窓生だより

「世界女性化学賞」の写真をもって

7回卒 浜中 佐和子

2011年8月初旬、遅々として進まない大震災の復興に暗い気持ちになりがちな時、相馬芳枝様（日本人受賞者）から写真付メールを受信しました。「世界女性化学賞」授賞式関係のものです。（写真：授賞式後の相馬さん）。



「世界化学年」と定められた2011年、世界女性化学賞が設けられ、23名が選ばれました。この中には2009年ノーベル化学賞を受賞したアダ・ヨナス博士（女性のノーベル化学賞受賞者として4人目）もおられました。アダ・ヨナス博士は2010年12月、本学記念館でご講演され、70歳過ぎても全身から活気溢れたご講演に、聴講した若い学生さんでさえ圧倒されたと思います。

後期高齢者の入り口にいる、私達のクラス（第7回卒）の人達も、相馬さんほどではありませんが、それぞれ「輝いて」おられます。「夢追い人」と評価されている方、高齢者に貢献する会社を設立された方、各同窓会の役員・世話役、地域グループ活動などなど・・・、10人中2人は旅立たれましたが、身体が動く間は「人の役に立つ」「社会に貢献する」ことが出来る「幸」を感じながら日々を過ごしています。

音声訳との関り

11回卒 多田 礼子

大阪市にある日本ライトハウス情報文化センターへ毎週三回ほど通って、録音図書作りをしています。今は、東洋医学の本の音声訳と、ほかの人のモニター、校正をしています。また佐保会大阪支部の朗読を楽しむ「グループ汝」という会に入っています。ここでは朗読の勉強とともにライトハウスからの依頼で、月刊誌「子供の科学」を毎月4時間ほどのデイジー図書として作っています。「子供の科学」に懐かしさを覚える方もいらっしゃるかと思います。今はとてもカラフルで、



図・表・写真など視覚に訴える部分の多い本です。音声訳というのは、視覚などに障害がある方に、活字情報を音声情報に替える作業です。原本どおりに誤読のない長時間聞いても疲れない読みが要求されます。それと共に、目で見ればなんとなく分かる同音異義語、著者の造語、図表など耳で聞くと分からないことが多々あります。そういう所には補足を入れて、内容が原本通り正確に伝わるようにします。過不足なく処理することは難しいですが、やりがいも感じています。録音図書は、まだまだ不足しているのが現状です。もう少し関わりたいと思っています。

図・表・写真など視覚に訴える部分の多い本です。音声訳というのは、視覚などに障害がある方に、活字情報を音声情報に替える作業です。原本どおりに誤読のない長時間聞いても疲れない読みが要求されます。それと共に、目で見ればなんとなく分かる同音異義語、著者の造語、図表など耳で聞くと分からないことが多々あります。そういう所には補足を入れて、内容が原本通り正確に伝わるようにします。過不足なく処理することは難しいですが、やりがいも感じています。録音図書は、まだまだ不足しているのが現状です。もう少し関わりたいと思っています。

卒業40年の節目の年に

16回卒 山本 則子

卒業してはや44年の歳月が過ぎようとしております。私たち16回生16人は、先生方の退官祝賀会や、卒業後30年・40年の節目の年に奈良で数回集まる機会があり、再会を喜び合いました。しかし、残念ながらここ数年の間にお二人があの世界に旅立たれてしまい、淋しい思いをしています。

卒業後40年の同窓会の折に、隔年にクラス会を開きたいという声が高まり、2010年、愛知県犬山で開催しました。深まりゆく秋空のもと、木々の鮮やかな紅葉につつまれた犬山城、明治村を散策し、木曽川のほとりの閑静な宿で一夜を共にしながら心ゆくまで語り合いました。

卒業後、母校の教員として研究と後輩の指導に全力投球された阿部さん、企業や公的機関で活躍した者、中学

校・高校で教職に専念した者、結婚して家事についた者など、歩んできた道はそれぞれです。しかし、人生への思いは共感できることが多く、先端の医療・科学技術か



ら身近な介護・年金・旅行など話題も豊富で、学生時代よりも打ちとけあって話が盛り上がりました。二日間、笑顔と会話は絶えることなく、幸せな時間を共有でき、元気をもらって家路につきました。次回は2012年、どこで再会できるか楽しみにしております。

さて、私ごとですが、数日前にモロッコから帰国し、この原稿を書いております。モロッコの雄大な自然（アトラス山脈・サハラ砂漠など）、エキゾチックで活気あふれる古都（マラケシュ・フェズなど）、ローマ遺跡（ヴォルピリス）など、さまざまな旅の感動が、時差ぼけの残

る頭の中を巡っています。モロッコは王政の国ですが、アラブ人・ベルベル人・少数のユダヤ人など多民族が異なる宗教や文化の壁を乗り越え、おおらかに生活している姿が印象的でした。

「百聞は一見に如かず」、元気なうちに多くの国を訪れ、感動的な自然遺産や魅惑的な歴史遺産に出会い、視野を広げ、命の洗濯をしたいと思っております。そのためには一日でも健康でありたいと、早朝散歩・水泳・ヨガ・太極拳など、この歳になり体を動かす快感にはまっています。

妹の会（いものかい）還暦クラス会

20回卒 角田 まさ子

在学当時からクラス会の名称は「妹の会」。現在ならばセクシャルハラスメントということになりますが、ある先生の奈良女の「芋ネエちゃん」発言が発端と言うのも懐かしい。メンバーも早や2010年還暦を迎え、できる限り多くの参加をと企画したクラス会でした。2010年10月30日。神戸近郊の幹事さんたちの尽力でその一年前から日程を設定、広報。

当日は季節遅れの大型台風が北上する天気予報、心配されたが何のその、熟年パワーに圧倒されたか台風も勢力落とし早々に立ち去ったようでした。有馬の奥座敷に集まったのは18人。卒業以来の参加も3人あって驚く出席率。卒業以来それぞれの38年。

皆それなりのしわ・たるみ・白髪を増やしながらかも、自分の持ち場で美しく年齢を重ねた顔。（せっかくの有馬なんだから。温泉は？）（それどころじゃないよ。おしゃべり。おしゃべり。）まさに、喧噪のなかでの笑顔、笑顔でした。

宴会場に移動しての祝宴（？）、そこには大きな冬瓜が3つ。早くから計画した還暦同窓会、お宿のご好意で

「寿」「還暦」「おめでとうございます」の文字が読める。夏の日差しを遮って成長させたよう。料理長さんのごあいさつ、記念撮影、近況報告と続く。部屋に帰ってからエステ・フラダンス・ダイエット講習会 etc. もちろん日付が変わっても話は尽きず。

翌朝は有馬から紅葉谷を見下ろしながらロープウェイで六甲山上に、あいにくの小雨ながらも眼下の神戸の街並み、紀伊半島はぼやっと見え隠れ・・・But・・・雨もまた楽し。最後はオルゴールミュージアムで優雅に乙女時代にタイムスリップ。ケーブルで下山後、バス車中から流れ解散。楽しくエキサイトした24時間でした。次回は2012年4月、私が幹事で大分湯布院での開催です。何人集まってももらえるか。再会を心待ちにしています。



21期生の異才たち

21回卒 三毛 重美

私たちは昭和48年卒業の21期生です。化学科は伝統的に異才の持ち主が多いとの噂は聞いていたが、我が21期生もバラエティ豊かな「異才刀自」がいるので紹介したい。

ご存知姫岡さんは東京大学社会学教授、有田さんは障害児教育にどっぷり漬かって定年を迎えた。大谷さんは学生時代から俳句一筋で、俳句大会の常連。奥平さんは大寺の大黒さん。前田さんは若者が熱中するハードロックの何とかというグループの追っかけをしているとか。永遠の少女かもしれない。山根さんと藤井さん（チャック）は学校教育の中の科学実験の指導に力を入れている。二人は共に理科教育の全国大会に出場している。田平さん、青春時代はさておき、同級生の孫が大学に受験しようかという頃に大学院に再入学。（ようやるわ）。岡沢さん、四宮さんは医学を学びたいということで、これは方

向転換組。他にも何人もの同級生が社会に向けて、あるいはそれぞれの家庭で活躍している。

こと程左様に異才だらけのクラスの面々にも時は容赦なく過ぎて、華甲となった。これからも、その異才に益々磨きがかかっていくだろう。拙文中敢えて旧姓を使ったのは、卒業後会っていない人たちも懐かしんでくれると思ったからだ。なお、21期の皆様には現況について間違いがあったらごめんなさい。次回原稿の依頼があればお引き受け願います。



疑問を持つ目を広げよう

23回卒 岡内 須美子

3月11日の東日本大震災以来、日本は変わるといわれていましたが、西日本と東日本では危機感が全く違います。今、まさに、無知・無関心からの脱却が急務です。「なぜ」「どうしてそうなるのか」と大学で学んだことを広げていった結果、疑問を持つこと、探ることの重要性を感じるようになりました。

私は、専攻した化学とは畑違いの法律事務を中心とする「地方行政」で2010年まで高松市の副市長を含めて35年間仕事をしてきました。その中で、市民の皆さんに「知ってもらうこと」「伝えること」の難しさを痛感しました。受け手が必要と感じていなければ情報は素通

りし、気づいた時は、時すでに遅し、後の祭りになってしまうこともあります。

日ごろから、住んでいる「まち」に興味を持って、しっかり観察していきましょう。みんなが関心を持つと「まち」はよくなります。国や地方の政策などが間違った方向にいかない「抑止力」にもなると思います。子育てと同じです。放り出しておいては、子どもは健やかに育ちません。政治や行政も子育てと同じように、見守り、一緒に育てていかなければいけないと一層強く感じている今日この頃です。

24回卒クラス会 in 富山

24回卒 森 八重子

2010年体育の日の連休に、富山に6名が集まって、クラス会が開かれました。

一日目は、高岡駅に集合して早速おしゃれなランチ、その後由緒ある瑞龍寺にお参りました。残念ながら雨模様でしたが、歴史ある立派なお寺がさらにしっとり落ち着いて、印象深く心に残りました。その後富山市内のホテルで、美味しい夕食をいただきながら、この4年間の積み重ねた話に花が咲きました。

二日目はいよいよメインイベント、立山の室堂までバスで登ります。昨日の雨も上がって、紅葉を眺めながら、一気に標高2450mの室堂平へ。視界はよくありませんでしたが、散策を楽しみました。みくりが池温泉のテラスで幹事さんが準備して下さった名物「ますの寿司」をいただいていたら、なんと雨が・・・あわてて店じまい

した事も楽しい思い出です。翌日は金沢にも寄り道して解散しました。幹事お二人の気配りと、美味しい富山の海の幸山の幸、とても楽しく美味しく充実したクラス会でした。今回参加できなかった、今まさに病気に立ち向かっている貴女、介護などで大変な貴女、頑張って乗り越えて、次回はお会いしましょう。



ある講座生のこと（1）

院51卒 新井 博子

化学と平行して、私の生活にはずっと絵筆がある。シルバーエイジの方々を対象にした習字の講座を市から依頼されたのはかれこれ10年前であろうか。初めのうちは、墨文字ばかりの講座をしていたが、折角ならちょっと絵を添えて、作品を作ってみようということになり、今では、カラフルな講座となっている。

講座生のひとりに、83歳の女性がおられる。若くして夫を亡くし、がむしゃらに働いてきて今も家業の手伝いをされているという。その方は、「この講座に入れてもらえて、生活にはりあいができました。これがなかったら、毎日の楽しみがあらしまへん。」と、ことあるごとに喜びを表される。そして、私が、筆を持てば、

私の手元を凝視して感激される。

「よろしいなあ。すばらしいなあ。ええお色出さはりまんなあ。お筆の線が生きてまんがな。」講師の私も、他の受講生の方々もなんとなくそんな気になるムードメーカーである彼女のエールがあって私の筆も、踊り舞う。

「この歳になってな こんなええことがあるやなんて。みなが寝てから、描きますねん。ここに寄せてもらうのが楽しみで 楽しみで。」と、満面の笑みで作品を見せてくれる彼女である。彼女こそが人生の達人であり先達かと思う講座風景である。

危険は、日常の中に（2）

院51卒 新井 博子

犬の散歩には、家の裏山を歩く。犬も私も、好き勝手に山を歩き、散歩のついでに、季節の花材なんかも摘んでくる。

10月10日 その日もいつものように無防備に山の入り口を歩いていた。すると・・・何やら前方に!!とぐろを巻くでもなく、動くでもなく、まさに、くつろいでい

るマムシと認識するや、「きゃーっ」と、走って後ろに戻ったが、そこは恐いもの見たさで引き返し、ゆっくりと動き始めたその姿をまじまじとながめて自分の知識の中にあるマムシに同一だと確認した。本物のマムシをはじめて見たのだった。今までに、マムシにであったことがないのに何でこんな入り口の路に？と思うのは、私のあさはかさ。山に住む生物にとって人間の通る路と、自分の行動範囲とに境があろうはずもない。

誤って踏んでいたら大変なことだった。いつもの路は、常に安全だと錯覚していた私。いつもの慣れゆえ、危険、明暗紙一重のマムシ遭遇事件だった。

わがフィールド彩雲ひろば

自分の持ち山の山裾を、子どもたちには遊び場として、おとなたちには、くつろぎの場として開放している。その整備や・・・・・・・・

ようこそ、27回（昭和54年卒）の部屋へ

27回卒 広中 尾藤 他

メーリングリストってご存知ですか？それはwebで作った私たちの部屋です。みんなで楽しくおしゃべり、参加者登録には管理者の許可が必要なので知らない人が入ってくることもなく、情報がweb上に漏れる心配もありません。気軽に書き込み、皆のやりとりを読むだけでもOK、まるで教室にいるみたい。クラス会の日程調整や相談もこの部屋で。この場を借りて、27回生の方、どうぞお待ちしております。参加無料。（連絡先 asako-hironaka@r5.dion.ne.jp）携帯可。そもそも、私たちのクラス会が始まったのは、同じ勤務先に勤める同窓生と「私たち、卒業して20年もたつのに、まだ一度もクラス会をしたことがないよね。」そこで、化学科名簿をもとに、全員にクラス会案内のお便り、皆は近況報告を返信。折り返し、みんなの近況報告のコピーを送付。こうして、第27回卒業生のクラス会が始まったのは平成12年春です。はじめは大阪や奈良での食事会でした。和食、中華、イタリアン、フレンチ。やがて、神戸異人館めぐり、愛

知万博、そして奈良女近くで修学旅行生のように一泊が恒例にとしだいにヒートアップ、人数もクラス30名の半数にとどく時も。30周年記念同窓会に感動し、とどまるところを知らない私たちは翌年東京ディズニーシー&横浜観光へと繰り出しました。

クラス会には、残念ながら参加できないときでも、お楽しみ、それは、メーリングリストにアップされるクラス会の写真です。楽しい様子が伝わって来てすっかり参加した気分。メールを通じてのおしゃべりも。

みなさんもこんなメール活用いかがですか。



「絆」

28回卒 梶山 まき

3月に東日本大震災が起こり、人と人との繋がりや家族の絆の大切さを改めて感じるとともに、何気ない普段の生活がどんなに幸せかを教えられました。我が家は、子供たちが一人暮らしをしているので家族みんなが揃うことが少なく、また、84歳になる実家の父は心臓に疾患があるため遠出は控え気味です。そこで、富士山と紅

葉を眺め家族の絆を深める旅に出かけました。1度に少しの距離しか歩けない父ですが、みんなで支えて予定のコースを回り切ることができ、とても喜んでくれました。互いを思いやる気持ちが強い絆を生むことを実感した旅でした。

パーカッション

29回卒 菅原 幸子

ここ数年市民バンドでパーカッション（打楽器）をしています。すぐに演奏できて楽しい楽器をいくつか紹介します。

タンバリンは振ればシャカシャカたたけばシャン。AKB48の曲やX'masソングにピッタリ。マラカスは玩具店にもあります。これも振って音を出します。カラオケ店に置いてあることもありますよ。ウッドブロックやカウベルは棒で叩いて音を出します。近所のイオンではしょっちゅう「シンコペティッドクロック」という壊れかけたぜんまい時計がテーマの曲が流れていて、その中でカッコンカッコン聞こえてくるのがウッドブロック。ラテン音楽やサザエさんの曲の最後に鳴るカンツは

カウベルです。その他にも様々な楽器があります。クラブスのクラッパーは日本の拍子木であり、叩き合わせるだけですが、曲の中で実に効果的に使われます。そうそう手拍子だって立派な楽器です。フラメンコ講習会で手の叩き方を教わりましたが、うまく叩くと、とてもきれいなよい音がします。

どんなものでも音が出れば楽器なのです。昔、机や皿を箸で叩いて親に叱られたものですが、あれも立派なパーカッションだった？皆さんもぜひ、身近なものを振って叩いてリズムを感じてくださいね。



20年ぶりの白衣

36回卒 大田 紀子

幼いころ、教育テレビ〇年の科学で実験や観察を演じるお姉さんに憧れていました。それでも地味な田舎の女子だった私が目指したのは学校の理科の先生でした。

しかし、私の不器用さを見かねた(?)山本先生に‘あなたは理論やな’と言われて大阪市大の西本先生のところに修行に行かせて頂き計算科学を専門にしていました。それが面白くて教師にはならず、企業に入ってスーパーコンピューターの近くにいました。

1人目の出産で退社してから次々に生まれて4人になった子もすべて学校に上がり、私もそろそろ外に出てみようかと思っているところでちょうど縁あって学研の科学教室の講師をさせて頂くことになりました。4回生のころからほとんど白衣を着ていなかったのが20年ぶりです。大丈夫かしら。

始めてみると子供たちと実験するのが楽しい、楽しい

♪ 皆さんも懐かしい‘〇年の科学’の付録と同様の教材を使うだけでなくそれにまつわるテーマの実験を毎回5から7個くらい行います。

昨日は空気の秘密がテーマだったので、子供の背丈ほどの直径のジャンボ風船を背中にぶつけて空気の重さを実感させたり、段ボールにブロウを突っ込んでヘビやお化けを飛び出させ、大変盛り上がりました。講座の始まる前に、子供の顔を想像しながらそれらの仕掛けを作るのがまた私の至福の時です。でんじろうせんせいのような大がかりなパフォーマンスはできませんが、身の回りにあるものでみんなで触って体験できるのが子供たちもうれしいようで、楽しみに来てくれます。

これが私の夢だったなと、思い出しました。

今の夢は、この子たちの中からノーベル賞受賞者を出すことです。

今日一日を生きる

37回卒 岩元 睦子

私は98年より神戸元町にあるアルコール依存症専門クリニックにて週一回、リラックス系プログラムのハンドワーククラブにて手仕事を教えています。主に羊毛を使ったフェルト作品を作っています。

アル中と言われるその病気は意志の強さや人格などとは関係なく大量に長期に渡ってアルコールを摂取することで誰にでも起こります。家族や仕事、自分の体まで犠牲にしても離れられなかったお酒を断って新しい人生を歩き始めているのがクリニックの患者さん達です。朝起きたら「今日一日飲まないでおう。」と心に誓い、夜寝る時に「一日飲まないで過ごせて良かった。」と思い、そうやって一日一日を繋ぐようにして生きる毎日。その

中で診察や投薬と同時にグループミーティング、仲間作りやお酒以外で人生を楽しむ事を見つける機会がいろいろあってその一つが私のグループです。自分の手で物を作り、それを暮らしの中で使う、親しい人にあげる事で自分に自信が出来て新しい人生を豊かにすることが出来ます。一生懸命手仕事に没頭している人たちの輝きを観るのが私の幸せ、私も彼らからたくさんのものを貰って人生が豊かになったと思います。日々の詳しい報告はブログに書いています。Goo ブログ「季節の中で暮らしの中で」ハンドワーククラブのカテゴリーでどうぞ。

10年ぶりの奈良女

43回卒 大仲 友子

4月半ばの土曜日、運営委員の集まりがあるので10年ぶりに奈良女へ足を運びました。正門に入って「文学部の校舎、色変わったなあ…」と思いつつ記念館の先へ進んでいくと…。中庭の樹がとっても大きい…。きれいに整備された後、一向に大きくならなかったのに枝振りもここまで立派に。大学会館の東側には高い屋根がついてショッピングモールみたいになっていたり…。でも会館の2階は不思議なくらいソファの配置が変わってなかったり…。10年ぶりの奈良女は当時のままでも新しくなっていて懐かしい、自分にとってとても貴重な空間に感じました。今期も微力ながらクラス代表を続けさせていただくことになりましたが、「卒業後、奈良女に来る機会がなかった同級生にもぜひ訪れてほしい」、「い

つか奈良女でクラス全員が集まれるように連絡を取り続けていきたい」という思いを強くしてくれる母校再訪でした。(今年は私用で余裕がなかったこともあって簡単に連絡のついた方のみとなってしまいましたが、…次回もご協力よろしくお願いいたします…。)



自然の不思議を忘れずに

51回卒 三浦 恭子

私は2003年3月に、奈良女子大学理学部化学科を卒業しました。四回生の時は高分子化学（岩井薫教授）を専攻しておりましたが、その後、分野を変えて分子生物学を志すべく、後に人工多能性幹（iPS）細胞を発見することとなった山中伸弥先生に師事いたしました。奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科、京都大学大学院医学研究科へと進学し、博士号取得後現在に至ります。修士、博士課程時は、ES細胞やiPS細胞の安全性と脊髄損傷モデルに対する移植治療効果というテーマで、がっつりと研究に取り組みました。現在は研究分野を変え、アリやハチに類似した真社会性を有し、かつ老化耐性・癌化耐性という興味深い特徴を合わせ持つ「ハダカデバネズミ」の不思議な仕組みを明らかにすべく、慶應義塾大学医学部生理学教室（岡野栄之教授）において、新規に研究チームを作成し、牽引しております。奈良女子大

学では化学を学びつつ、同時に作曲とバンド活動に明け暮れておりました。当時、化学の知識を得て研究の面白さを味わったこと、そして作曲して発表するという創造の喜びを見出したことは、現在の研究への情熱の基盤となったと考えております。サイエンスは、自らの手で新しい何かを発見し、今までに無いものを創ることが出来る、素晴らしい世界です。ぜひ後輩の方々も、小さな頃に味わった初心、「自然の不思議」を忘れずに頑張ってくださいましたら幸いです。

現在の所属 慶應義塾大学医学部生理学教室
ハダカデバネズミ研究ユニット
日本学術振興会特別研究員（SPD）
HP: <http://debanezumi.okano-lab.com>

社会人になって感じたこと

55回卒 青山 恭子

私は2003年に大学に入学し、大学4年間、修士2年間の計6年間化学科でお世話になった後、2009年4月に現在の職に就きました。私が配属になった部署は社内の製品に使用されるポリマーの原料となるモノマーを開発する部署で、女性の総合職が配属されるのは私が初めてのケースという部署でした。それまでの6年間は女性が多い環境で生活していたのに対し、状態が一気に逆転して男性ばかりの環境に身を置くことになりました。私が配属された当初は部署内の方はもちろん、仕事でお世話になる原料の製造工場の方から非常に気を遣われていたため、仕事がやり

にくい部分がありました。ただ時間が経つにつれて私も周囲もそういった環境に慣れたのか、今では良い環境で仕事ができるようになっていきます。

現在の仕事内容は大学時代の研究内容とは違いますが、大学の研究生活で学んだことが私の社会人生活の基礎となっています。出来が悪く迷惑ばかりかけていましたが、辛抱強く指導して下さいした諸先生方には本当に感謝しています。そんな先生方に少しでも成長した姿を見せられるよう、日々仕事に邁進していきたいと思っています。

＜ あ と が き ＞

ニュースレター形式の「くりすたる」として、2回目の12号を皆様にお届けします。昨年は東日本大震災を経験し、絆を見直す年となりました。それぞれの青春の一時期を奈良女子大学理学部化学科で過ごしたことを同じくして集っている化学科同窓会の縁を今後とも大切にしていきたいと思ひます。この「くりすたる」がそのつながりの一端となれば、編集委員一同大変うれしく思ひます。

くりすたる編集委員

15回卒 青山 宏子

編集に関わる中で、同窓会の皆さんが、実に多方面で活躍されていることを実感いたしました。また奈良で共に青春を過ごして得た「きずな」を今後も大切にしていきたいと改めて思ひます。

23回卒 山形 典子

クラス代表を引き受けさせていただいたところ、くりすたる編集委員という役を仰せつかりました。原稿集めという仕事を通じて世代を超えてお付き合いが広がり、とてもよい経験となりました。ご協力いただいた皆様に心からお礼を申し上げます。

27回卒 伊藤 恭代

若いときは興味がなかったのに、50の声を聞いてからクラス会が楽しみです。同級生の話は、歩んだかもしれないもうひとつの人生、そして同窓生はこんなに年代が違っても不思議！どことなく感性が似ている。楽しい発見でした。

51回卒 圓山 雅子

久しぶりに同級生の近況を聞けたり、素敵な先輩方と交流を持てたり・・・編集委員という貴重な経験をさせていただきありがとうございました。歴史ある母校、同窓生のご活躍を誇りに思うと同時に自らも身の引き締まる思ひです。